

西宮市男女共同参画推進委員会  
令和6（2024）年度 第1回会議録

日時：令和6（2024）年8月20日（火） 午前10時00分～12時00分

場所：男女共同参画センター ウェーブ 411 学習室

●出席者

（委員）有本 尚央、安東 由則、市山 和明、小川 真知子、奥野 明子、京藤 光江  
檀 麻衣、山本 千晶

（事務局）人権推進部 部長 森山 毅  
男女共同参画推進課 課長 中島 貴子  
係長 野木 健佑  
主査 立石 和己

こども支援局

子育て支援部 部長 中塚 和雄  
子供家庭支援課 課長 三桝 浩一  
子供家庭支援課 係長 小栗 佳奈

●傍聴者 0名

●会議次第

1 開 会

2 議 題

- 1 令和6年度事業報告等について
  - （1）男女共同参画プランにおける数値目標の更新
  - （2）学生のためのライフプランニング事業
  - （3）西宮市デジタル人材育成事業（西宮でじたる女子プロジェクト）
- 2 地域女性活躍推進交付金を活用した令和7年度事業計画について
- 3 西宮市制施行100周年・ウェーブ開館25周年事業について

3 閉 会

## 1 令和6年度事業報告等について

### (1) 男女共同参画プランにおける数値目標の更新

#### 【事務局からの説明】

地方自治体の男性職員における育児休業取得率の政府目標が引き上げられたことに伴い、西宮市特定事業主行動計画（後期計画）の目標値が改定されたため、男女共同参画プランの数値目標のうち「市職員の男性の育児休業取得比率」を令和6年4月1日より13%から市長部局においては育児休業取得期間1週間以上の割合を85%、教育委員会、消防局、中央病院、上下水道局においては50%に更新した。

#### 【委員の意見等要旨】

- 無記名でアンケートを取り、記入された意見、希望に対処することで育児休業取得率を向上させるために努力している企業があると聞いた。西宮市では、育児休業取得率の目標を達成するために具体的にどのような取り組みをするのか。
- 令和5年度に令和3年4月1日から令和5年6月1日までに育児休業から復帰した正規職員を対象にアンケートを取った。  
アンケート結果を踏まえて、風通しのよい職場の醸成が課題と考え、職場や家庭でのコミュニケーション術をテーマに職員研修を行った。今年度はアンコンシャスバイアスをテーマに男性育休増と女性管理職増を目指したマインドチェンジ研修を予定している。今後は復職後のサポートをどうすべきか考えていきたい。
- 育児休業取得率85%を目指す時に、マインドチェンジ研修のように、個々の思考を変えていくことは大事だと思うが、マインドセットが変わったとしても制度が変わらないと組織に対する不満が変わってしまう。制度面でどのような取り組みをするのか。
- 未就学の子を養育する職員は最長2時間の部分休業を取得することができるが、小1の壁に対処するために、子が1年生の間は最長2時間の職務専念義務の免除を申し出ることができるようになった。
- 職員が育児休業を取得した場合、代替職員を会計年度任用職員で補うことになる。会計年度任用職員で補うことができる仕事は限定的であり、残された正規職員の負担が増えるが、職員の定数が条例で決まっており、代替職員を正規職員にすることは難しい状況にある。
- 民間企業も同じような問題を抱えている。育児休暇中の職員の仕事を補う方法として、人員だけでなく、お金で補う方法もあるのではないか。
- 長時間労働（残業）の是正は進めているのか？
- 水曜日と金曜日の午後5時になると定時退庁のアナウンスが庁内に放送され、所属長に対しても定時退庁を徹底するよう頻繁に通知されており、長時間労働を抑制しようという職場環境が醸成されつつあり、長時間労働は徐々に減っている。
- 育児は育児休業期間中のみだけではなく、何年も続いていくものだ。仕事と家庭の両立をどのようにサポートできるかが重要。

## (2) 学生のためのライフプランニング事業

### 【事業概要】

学生が長期的な視点で自らの人生設計を行い、能力を発揮しつつ主体的に生き方を選択することを支援する目的で、令和4年度より女性活躍やジェンダー、性の多様性などをテーマに事業を実施。学生の参加拡大が課題である。今年度の実施事業は、9月28日土曜日の13時30分から「第3回未来につながる私のアクション」、2月ごろにウェブ×ヒューマンライブラリー（仮称）を予定している。

### 【委員の意見等要旨】

- 続けていくことは大事。良い企画であれば、口コミで拡散され、人が集まる。
- 中高生に向けてどのようなアプローチをしているのか。
- チラシを市内の全市立中学、高校に配布したり、学校の職員を通じて参加を呼びかけたりした。
  - ※一部説明について修正いたします。「市内の高校（公私立とも）に配布」
  - 会議後、近隣9中学校に5部ずつ配布しました。
- 全校生に配布しているのか。
- 各学校に3部ずつ配布している。
- 各学校に20部ぐらい置いといて、生徒が自由にとれるようにしてみた方が良いのではないかと。まずは知ってもらうことが大事。
- 中学生がウェブを知る機会を増やすことができるので、トライやるウィークのウェブでの受け入れ校を増やせないのか。
- 複数校受け入れる人員体制が整っていないが、学校側から要望があれば検討したい。
- 「第3回未来につながる私のアクション」の募集について、定員がわからない。開催時間が2時間ある中でタイムスケジュールの詳細がわからないので、どういう雰囲気なのかイメージできない。そうになると、興味があっても参加しにくい。今後SNS、HP等で具体的なイメージ等詳細を載せてみてはどうか。少し興味がある時点で、企画が具体的にイメージできる情報があると参加しやすいのではないかと。
- 部屋自体は145名程度入れるが、昨年の参加者は30名程。今後SNS、HP等で詳細を載せていくことにする。
- 大学でも、自身のライフプランやキャリアを考えるなど、これと同じような取組を行っている。テーマが具体的に魅力的でないと大学生はなかなか参加してくれないと感じている。
- 大学生向けの企画は大学でもやっている。どうしても抜け落ちてしまう層（離職してどこにも所属していない女性等）に対しての事業に注力してはどうか。本当にここでやる必要があるのかどうか根本的な部分を考えてみてはどうか。取捨選択し、限られたリソースの中で力を入れるべきところを考えるべき。

### (3) 西宮市デジタル人材育成事業（西宮でじたる女子プロジェクト）

#### 【事業概要】

令和6年3月に民間の3社から構成される「デジタル女子活躍推進コンソーシアム」と西宮市が連携協定を結び、女性デジタル人材の育成や多様な働き方の推進に取り組んでいる。

4月から5月にかけて受講生を募集し、7月から約4か月間のオンライン研修を実施。修了者にはコンソーシアムから全国の仕事が紹介され、自宅にいながら自分のライフスタイルに合わせた就労が可能となる。市は、このプロジェクトに対し、市政ニュースなどで広報協力を行い、現地集合研修の会場としてウェブの学習室を提供している。

#### 【委員の意見等要旨】

- 受講料が高く、研修期間が長いが、想定以上に受講生が集まり良いスタートではないか。
- この事業内容が良ければ口コミで広がると思うので、ニーズがあれば継続した方が良い。
- 研修後、ハローワーク等と連携し、その後のフォローアップをしっかりとしてほしい。
- 次年度も開催するのか。
- 最終的に就労に結び付いたかどうかの結果を見てから判断したい。
- 受講料は適正か。
- ライセンス料、集合研修、相談会等を考慮するとおかしな金額ではないと考えている。他市でもでじたる女子プロジェクトの先行事例があるため参考にしている。
- 仕事を斡旋してくれるのか。
- 企業とのマッチングをサポートしているが、業務委託契約のものがメインとなる。  
継続的な収入につながるように、起業や正社員を目指すきっかけにもしてほしい。  
市役所内でも関係部署が集まり、市内企業とマッチングできないかどうか話し合いを行っている。
- 企業に利用されていないのか。
- 企業を売り込むための手段になってはいけなないと考えている。市内企業とのマッチングを促進することで、市内企業の育成やデジタル人材の就労につながれば市としてメリットがあるため、出口戦略をしっかりと練っていききたい。
- 西宮商工会館内に、にしのみや起業家支援センター「みやスタ」があり、スタートアップ支援を行っている。研修終盤に案内して、起業することも視野に入れて相談してもらうのはどうか。
- 既にパンフレットを渡しているが、十分に説明できていないので、研修終盤にもう一度案内をする。

## 2 地域女性活躍推進交付金を活用した令和7年度事業計画について

### 【制度概要】

地域女性活躍交付金は、地域の実情に応じた女性の活躍推進に資する取組を支援することで、地域における関係団体の連携促進と女性の活躍を迅速かつ重点的に推進することを目的としている。

内閣府から交付される地域女性活躍交付金を活用し、男女共同参画センターで各種講座や相談事業を展開している。

### 【現状の課題】

令和7年度の事業にむけて、交付金をより積極的に活用して事業を展開していきたいが、主催講座に新規性がないと内閣府より指摘され、交付金が一部不採択となっている。

### 【委員の意見等要旨】

- センターの役割としてエンパワメントと相談業務は今も昔も変わらず重要。芯は変わらないと思うので、今までやってきたことに新しい視点を加えて、魅せ方を工夫してみてもどうか。
- 4月から「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が施行されている。その法律ともリンクさせ、国が求めていることを考えてみてはどうか。
- 女性特有の健康課題として、がんにかかる人が多い。がんと就労、がんと家事育児などの切り口から取り組んでみてはどうか。
- 南海トラフ地震の危険性が指摘されているため、震災時の女性のトラブルに視点を向けてはどうか。阪神大震災からバージョンアップした震災対応を考えてほしい。
- 交付金を利用して企業、市民を巻き込んで、災害対応や防災への意識を高め、女性の参画を促してほしい。
- 関係部局と連携して防災について考えていく。地域の防災活動人材育成とも結びつくようにしたい。課題が多々あるので商工会議所の女性会とも連携していきたい。
- 子供を預けて、仕事に集中できる環境をつくるために、神戸市のように女性向けコワーキングスペースの設置を検討してほしい。でじたる女子プロジェクト受講生のアフターフォローとしても利用できるのではないかな。
- 設置費用の問題があるが、当センターには子供室があり託児も可能なので、検討はしていきたい。
- 西宮市ではなかなか保育所に入れないし、一時預かりも競争倍率が高い。起業している女性にとっても、託児があり、2時間だけでも集中できるスペースがあれば大分助かる。是非ともコワーキングスペースを検討してほしい。

### 3 西宮市制施行 100 周年・ウェーブ開館 25 周年事業について

#### 【事務局の説明事項】

来年度西宮市は市制 100 周年を迎え、男女共同参画センターウェーブも開館して 25 年という節目の年になるため、記念事業を検討している。委員からの意見もお伺いしたい。

#### 【委員の意見等要旨】

- どういう人たちに来てほしいのかターゲットを明確にするべき。講演会の人選等もそれに応じて変わってくる。
- 25 年の記録動画を作るのであれば、開館当初から携わっている人たちに協力してもらい、現在ウェーブを利用している人たちよりも若い人向けに開催することで、全世代に向けて発信できるのではないか。
- 実行委員会形式で職員だけでなく市民と一緒に作り上げてみてはどうか。
- 西宮出身の人を呼ぶ。
- パリオリンピックではジェンダー平等が理念となっていたし、性別問題も話題になったので、スポーツとジェンダーをテーマにしてみてもどうか。
- 阪神大震災から 30 年の節目にもなるので、防災と女性をテーマにしてみてもどうか。
- 周年事業にも地域女性活躍交付金を活用してみてもどうか。
- ウェーブをいろいろな人に知ってもらうために、市内の施設で出張形式の周年事業をやってみてもどうか。多くの人が参加してくれて、普段とは違う客層にも知ってもらうことができる。
- 市内の有名な企業とタイアップし、企業の知名度を利用してみてはどうか。企業側にとっても SDGs に取り組んでいるというアピールになる。